

な か ま

小鳥には 厚き氷の 今日の糧
無彩色 生かされ青の 雪間かな

行事予定表

2月15日	如月祭
2月22日	入園説明会
3月1日	体験入園
3月8日	理事会
3月15日	卒園式・卒業式
4月12日	入園式・入学式



お願い

1 名札の着用を

本校は、保護者の支援のもとに、子どもたちの安全が守られています。学校が何とかしてくれるという発想は、ここでは禁物です。

名札をつけることが、外部者との識別化になり、緊張感と警戒心を喚起するのです。名札をつける意味について再度理解いただき、警戒心をもっていただければ幸いです。

さらに言えば、うちの子のことを関係者の誰かが守ってくれるだろうと人任せにするのは得策ではないと思います。みんなで警戒心を共有しないと、いざというときに対応できません。

そこで、さらにお願いは、可能な場合、**保護者はできるだけ校舎内にとどまっていたいただきたい**のです。もちろん、その目的は、部外者に入りくさを示すことです。

2 駐車違反は許されない

このごろまた、駐車枠の外に止めている車が、ほかの人の動きを妨げている実態が報告されています。必要以上に気を使っていたいただきたいのに、ま逆をいつているのは、許しがたいことです。借用校の規則に違反しているだけでなく、日本への信頼を大きく損ねる行為です。お互いに、注意しあうことも大事なので、違反者への声かけなどのご協力を積極的によろしくお願いします。

お知らせ

来年度の学校規定に変更があります。

- 1 幼稚部さくら組定員を18から20にする。
- 2 小3の副担任を廃止する。
- 3 Pコース小学部高学年を2クラス編成にする。
- 4 高等部A B、Pコース高等部を、高等部1組2組として再編成する。

プリンストン日本語学校新聞



平成26年度 No.38号

平成27年2月15日

文責 長尾重範 nagao@pcjls.org

「宮沢賢治」ってどんな人？ (21) 芝崎雅行

妹トシ (2)

詩集『春と修羅』には、トシが亡くなった1922年11月27日の日付を持った詩が3つもある。

「永訣の朝」「松の針」「無声慟哭」から引用すると

ああけふのうちにとほくへさらうとするいもうとよ
ほんたうにおまへはひとりでいかうとするか
わたくしにいつしよに行けとたのんでくれ
泣いてわたくしにさう言ってくれ (松の針)

「おまへはひとりどこへ行かうとするのだ」(無声慟哭)と云う問いかけが繰返される。これは単なる悲しみの言葉ではなく、賢治は文字通り、死んだ妹がこれからどこへ行くことになるのか、真剣に考えていたんだよね。

3つの詩の後、『春と修羅』の次の詩「風林」と「白い鳥」は、23年6月の日付を持つ。賢治は半年以上も、まともに詩を書くことが出来なかった、ということになる。トシへの思いは続いていた。

とし子とし子 / 野原へ来れば

また風の中に立てば / きつとおまへをおもひだす

おまへはその巨きな木星のうへに居るのか (風林)

二疋の大きな白い鳥が

鋭くかなしく啼きかはしながら

しめつた朝の日光を飛んでゐる

それはわたくしのいもうとだ

死んだわたくしのいもうとだ

兄が来たのであんなにかなしく啼いてゐる

(それは一応はまちがひだけれども

まつたくまちがひとは言はれない) (白い鳥)

この後に続くのが、「青森挽歌」「オホーツク挽歌」。当時賢治は教え子の就職斡旋のため、樺太へ行く必要があったのだけど、それは、死んだトシとの通信を求めた汽車の旅でもあったんだ。云うまでもなく「青森挽歌」「オホーツク挽歌」の線路の先は、銀河鉄道の線路に続いて行くことになる。。と、ちょっと脱線させてもらえば、汽車と云えば、宮崎駿の『千と千尋の神隠し』の汽車シーンは、どこか僕らが持つ文化的な懐かしさの感情に訴えてくるところがあると思わない？ どうしてって、あのシーンで、同乗する人間たちは皆黒い影になっていて、「千」は神々の住人の一部になっていたわけだから、汽車は両者の世界で共有されていた(だから、千の側からは、人間は影になっていた)んだよね。生と死の間の旅路も汽車が相応しい。その経緯を記憶する文化が僕らに身につけると云ったら、云い過ぎだろうね。